

日本におけるメソジストの始まり

デビッド・リーディー（学院宣教師・理工学部教授）

初期の伝道活動の始まり

日本への最初のメソジスト宣教師、ロバート・サミュエルとヘンリエッタ・スペリー・マクレイ、アービン・ヘンリーとジェニー・ロング・コレルは、1873年6月11日に横浜に到着した。彼らは皆、メソジスト・エピスコパル教会（MEC）の宣教教会から派遣された。同月末、彼らはカナダ・メソジスト教会からの最初の宣教師を迎えた。その後、福音主義協会（1922年に福音主義教会となる）、メソジスト・プロテスタント教会、南メソジスト・エピスコパル教会が続き、1895年にはユナイテッドプレスレン教会が到着し、今日の合同メソジスト教会の前身団体の輪が完成した。

MECミッションは、発足から1年も経たないうちに、横浜、東京、函館、長崎に宣教師夫婦を駐在させ、1874年には弘前にも夫婦を派遣し、後にMECの主要拠点となる教会を設立した。MEC女性海外宣教協会（WFMS）から派遣された最初の宣教師ドーラ・スクーンメーカーは、女性と女兒のための教育活動を行うために1874年に到着した。

各センターで説教が始まり、改宗者が生まれ、教育活動の基礎が築かれ、日本人の宣教協力者が増えた。宣教協力者の役割は不可欠であった。例えば、弘前で宣教師たちを最初に招いたのは本田庸一であった。1875年にそこで聖霊が注がれた結果、活気ある教会が設立され、本田自身も含め、日本における神の国のために働き続ける人々を輩出した。その後、彼は日本メソジスト教会の初代司教となった。

MECの活動は1884年に年次大会として組織され、13人の宣教師と19人の日本人が創立メンバーとなった。大会は北は北海道から南は九州まで広がった。世紀最後の10年間には、伝道活動が琉球諸島にまで拡大された。

カナダ・ミッションは1874年に東京で活動を開始し、静岡でキリスト教の証しを開拓した。1889年には年次大会を組織し、その時までには本州の中央部全域を伝道範囲とした。

1876年11月13日、福音同盟の最初の宣教師たちが横浜に到着した。メソジスト・エピスコパルの宣教師たちが彼らを温かく歓迎し、もてなしたことで、その後数年間の両ミッション間の協力の基礎が築かれた。フレデリック・C・クレッカー医学博士と

その妻エリザベスが一行を率いた。1877年に東京と大阪で活動が開始され、後に郡山にも拡大された。日本における救世軍の創設者となった山室軍平は、1888年に東京の福音主義教会で改宗し、洗礼を受けた。1893年に年次大会が組織された。

メソジスト・プロテスタント教会の日本への最初の宣教師はハリエット・G・ブリテンで、1880年9月12日に来日し、1ヵ月後には女学校を開校した。1883年にフレデリック・C・クラインが到着するまで、現地にはメソジスト・プロテスタントの聖職宣教師はおらず、ブリテンは自分の学校でクリスチャンになった少女たちの司牧を横浜のメソジスト・エピスコパルの宣教師たちに頼っていた。クラインは1886年に横浜で最初のメソジスト・プロテスタント教会を設立し、1887年には名古屋で活動を開始した最初のプロテスタント宣教師となった。1892年には年次大会が組織された。その教会は、名古屋、静岡、横浜を中心とする東海道沿いに点在していた。

MEC南伝道所は、この地域で活動する人員も資金もなかった他のメソジスト伝道所からの奨励を受けて、ジャパンの瀬戸内海地域に設立された。1886年7月26日に到着したジェームズ・W・ラムースとメアリー・マクレラン・ラムース夫妻、そしてその秋に到着したウォルター・ラムースとデージー・ケリー・ラムース夫妻を含め、開拓者たちはみな元中国宣教師であった。神戸はこの伝道の中心地となった。1年も経たないうちに、宣教師たちは四国でも説教を行い、ナニー・ゲインズが広島に到着して女性のための教育活動を始めた。

1888年には、サミュエル・H・ウェインライトによって九州の大分で宣教活動が開始された。ウェインライトは、初期の宣教師の多くと同様、官立学校で教えることで自活していた。ウェインライトの教え子たちは1889年末に聖霊の注ぎを体験し、何人かは宣教に人生を捧げた。そのうちの一人である釘宮辰生は、後の日本メソジスト合同教会の司教となった。1892年には、12人の宣教師と4人の日本人で構成される年次大会が開かれた。1895年11月にアメリカから帰国したメソジスト・エピスコパル出身の2人の日本人、中島金五郎と土井惣吉が京都と東京で宣教を開始した。アルフレッド・T・ハワードは1898年の夏に着任し、1年後に彼の妻メアリーが加わった。年次大会は1901年に組織された。その教会は、京都・滋賀、小田原・静岡、東京・千葉の各地域に分散していた。

教育活動

当初から教育活動は、日本におけるメソジスト宣教の発展に大きな役割を果たしていた。女性宣教者会は、長年にわたって女子校に人材と資金を注ぎ込み、質の高い教育機関を発展させた。中等教育と大学レベルの男子のための教育活動も重視された。これらの学校はすべて、特に英語教育で注目された。

メソジストの宣教師たちは、早い時期から、官立学校の生徒や教師たちに福音を伝えることにも関心を持っていた。1920年代には、トバーン・T・ブランボーがウェス

レー財団運動を紹介し、札幌、仙台、東京に学生センターが設立されました。

クリスチャン指導者の育成

最初の日本人伝道者たちは、仕事の中で訓練を受けた。しかし、数年のうちに学校も設立された。1879年、ミルトン・S・ペイルがメソジスト・エписコパル・ミッション神学校を開校した。この神学校は後に青山学院大学の一部となった。カナダメソジスト会も福音主義協会も、その歴史のさまざまな時期においてこの神学校と関係があり、牧師候補者を派遣して訓練を受けさせたり、教員を派遣したりしていた。南部メソジスト派は1889年、関西学院の一部として独自の神学養成課程を設立した。メソジスト派プロテスタントは、独自の神学部設立に失敗した後、関西学院と青山学院に分かれて神学生を養成した。ユナイテッド・ブレザレンは、京都にある会衆派の同志社神学院と協力体制を築いた。

女性伝道者を養成するための学校も設立され、初期には「聖書婦人」と呼ばれた。メソジスト・エписコパルは1880年代に横浜で養成学校を始めた。これは1920年代に青山学院大学神学部女子学科となった。東京では、福音主義協会のスーザン・M・パウエルンファインドが1904年に女子師範学校を設立し、後に音楽科と幼稚園教育科を併設した。この学校は、メアリー・ラムースが自宅で始めたカナダ・メソジストの東洋英和女学校の一部となった。この学校は、後に幼稚園養成コースとなった。神戸では、他のいくつかの学校と合併して、現在の西宮聖和女学院大学となった。

無力な人々に可能性を

教育と説教に加えて、メソジストの宣教師たちは広い意味での癒しのミニストリーにも取り組んでいた。政府は、6年間の義務教育カリキュラムを持つ公立学校制度を確立していたが、都市のスラム地区での制度の実施は遅れていた。MECのWFMSは、東京と横浜の最下層に位置し、最も無視されている層のために、このニーズを満たすためのデイスクールを開発した。既婚女性宣教師たちは、全国母親協会の発展に積極的に参加し、主婦や母親たちのために、基本的な栄養、衛生、育児についての授業を推進した。この運動に関連して、ミラ・ヘブン・ドレイパーは日本で母の日の行事を紹介した。

福音会の女性たちは、年季奉公の身分にすぎなかった女子学生のための活動を率先して行った。東東京のスラム街での社会復帰活動は、20世紀初頭にカナダのメソジストによって始められた。

引退後、宣教師の息子と暮らすために来日したシャーロット・ドレイパーは、1890年に横浜に視覚障害者のためのキリスト教学校を設立した。福音主義協会のロイス・クラマーは、聴覚障害者の教育に貢献したとして勅許の勲章を受けた。

多くの農村地域で、逼迫した貧困を緩和する試みがなされた。ジョン・イングは、

弘前周辺の農家にリンゴ栽培を紹介し、「日本のジョニー・アップルシード」として知られるようになった。1930年代には、ジャナドゥス・ストットが宇和島でいくつかの実験的な農場プロジェクトを開発し、政府から高く評価された。

日本におけるメソジスト同盟

伝道と宣教の精神は、キリストにおける一致を達成するために教派の壁を越えることをいとわないエキュメニカルな精神と密接な関係にあることを、日本のメソジスト信者は当初から認識していた。日本で活動する6つのメソジスト団体は、神学教育で協力し、共通の賛美歌集を作り、合同の定期刊行物を発行した。1883年と1887年に日本の宣教師たちによって作成された統合計画は、北米の理事会によって却下された。1901年、6つのグループの宣教師と日本人は、日本では誰もが受け入れることのできるメソジストの統合の基礎を採択したが、北米ではまたもや受け入れられなかった。カナダ・メソジスト、メソジスト・エписコパル、南メソジストの3大日本年次総会の日本人指導者たちが多大な圧力をかけた後、海の向こうの教団本部は1907年に日本メソジスト教会の結成に同意した。これは、宣教地で生まれた最初の統一自治メソジスト教会であった。残念なことに、3つの小さなグループ（メソジスト・プロテスタント、福音主義協会、合同プレスレン）は、それぞれの母体から締め出された。

より大きな連合を目指して

日本における最初のプロテスタント宣教師たちの夢は、一つの超教派の教会であった。自国の教会には教派主義の強い精神があり、それを阻んでいたが、特に聖書の翻訳においては、常に大きな協力があつた。1872年、1883年、1900年に開かれた超教派宣教師会議は、この傾向をさらに強めた。

20世紀の最初の30年間、海外からのエキュメニカルな働きかけは、日本での協力活動を促進する重要な要因となった。4人の日本人指導者が出席した1910年のエジンバラ会議は、大きな刺激となった。その年、連合伝道会議が結成され、1911年には日本教会連合会が発足し、1913年にはこの2つをつなぐものとしてエジンバラ会議日本継続委員会が結成された。1913年、エジンバラ会議の日本継続委員会が、この2つをつなぐものとして結成された。協力的な成果の1つは、メソジストが財政的にも人的にも支援した東京女子キリスト教専門学校であった。

1921年に国際宣教協議会が設立されると、日本での協力にさらに弾みがついた。1923年には、日本キリスト教協議会（NCCJ）が、継続委員会と2つの連盟の代わりに組織された。

1920年代から1930年代にかけてのナショナリズムの高揚は、キリスト教信徒の間に、教会の一致と外国の支配からのより多くの自治を求める気持ちを加速させた。この数十年間、NCCJは包括的な教会統合を目指した継続的な議論を主導した。同時に、

さまざまな非公式信徒グループが会合を開き、それぞれの教派に対して圧力を強めていった。

しかしクライマックスは、戦争に集中する政府にとって、国内のさまざまな宗教団体を管理しやすい大きな単位に統合することを目的とした政府の法律、宗教団体法によってもたらされた。1940年10月、東京で全国キリスト教集会が開かれ、日本基督教団が作成した統合案が採択された。新教会の創立総会は1941年6月24日に開催された。その運命の夏の日、初代司会者である阿部義宗（日本メソジスト教会最後の司教）の指導の下、教団創立総会に出席した代表者たちは、東京の皇居に向かって一礼し、北米諸教会との直接的な関係を断ち切った。その後4年間、教会は政府によって任命された監督によって実質的に管理された。1945年秋に宗教法人法が廃止されるまで、教団は自由に統治することができなかった。

しかし、1941年以前、戦争の雲行きが怪しくなる中、阿部司教は、賀川豊彦をはじめとする日本のキリスト教指導者たちとともに、「リバーサイド・フェローシップ」として知られるようになった北米のキリスト教指導者たちと会合を開き、戦争を回避するための最後の努力をしていた。この集まりは戦争を防ぐことはできなかったが、将来新しい関係を築くための決意とビジョンを与えてくれた。

参考文献

- “A Founder of Methodism in Japan: Teikichi Sunamoto.” *World Outlook*, vol. Volume XXVIII, no. No. 8, Aug. 1938, p. 8.
- Aoyama Gakuin University Research Institute. *The Mission and Challenges of Christian Universities: The Origins of Aoyama Gakuin and the Challenges in the 21st Century*. Kyobunkan, 1 Apr. 2011.
- Dougill, John. *In Search of Japan's Hidden Christians*. SPCK, 15 Sept. 2016.
- Gagan, Rosemary R. *A Sensitive Independence : Canadian Methodist Women Missionaries in Canada and the Orient, 1881-1925*. Montreal, McGill-Queen's University Press, 1992.
- Iwamoto, Sukenari. “On the Tradition of the Methodist Church in Japan.” *Wesley and Methodist Studies*, vol. 11, no. 2, 17 Sept. 2001, pp. 1–3, <https://doi.org/10.5325/weslmethstud.11.2.fm>.
- Krummel, John W. *A Biographical Dictionary of Methodist Missionaries to Japan: 1873-1993*. Tokyo, Japan, Kyobunkan, 25 Feb. 1993.
- “Methodist Mission in Japan: A Historical Perspective - the Methodist Church in Singapore.” *The Methodist Church in Singapore*, 24 May 2011, www.methodist.org.sg/methodist-message/methodist-mission-in-japan-a-historical-perspective/.
- Nishitani, Kosuke. *Educational Evangelism: The Mission of Japanese Christian Schools*. Yobel Inc., 1 Mar. 2018.
- Nomura, Makoto . “Agony and Struggle of the Japanese Methodists Church : from Meiji Restoration till World War I.” *Wesley and Methodist Studies*, vol. 2, 31 Mar. 2015, pp. 117– 120, <https://doi.org/10.5325/weslmethstud.6.2014.fm>.
- Teikichi Sunamoto | UMC.org. “The United Methodist Church.” *The United Methodist Church*, 27 Apr. 2023, www.umc.org/en/content/sunamoto-teikichi-a-founder-of-methodism-in-japan.
- United Methodist News Service. “A United Methodist Presence in Japan.” *Sgaumc.org*, 25 May 2011, www.sgaumc.org/newsdetail/a-united-methodist-presence-in-japan-17056303.